母　の　戦　争

長泉町遺族会　芹澤和子

父の声ひと度なりと聞かしめよ海に向ひてわれは乞ふなり

海軍への令状握りわれを抱き慟哭せし母遠く記憶に

黒き布電球にかけ身を寄せ合ひＢ29 去るをただ待ちゐき

艦砲射撃のやみし束の間われを負ひ川に飛び込む母にてありき

写真のほか見しこと無かりし父上よ「そちらに行ったら私を見つけて」

久びさに休暇をもらひ帰省せし父の両手に金平糖ある

銘仙の己が着物を朱に染めて姉とわが服縫ひくれし母

セピア色の写真の中の父を見てお前に似てると亡き兄言ひし

靖国にせめてと父の戦死の地指になぞりしを言ふ墓処の母へ

提灯の境内埋むる盆の夜灯りが「護国の森」を彩る

御明りを灯し玉砂利を踏みゆけり兵なる父の踏みけむ参道

海兵の父に抱かれし一歳は齢八十歳(はちじふ)の現在(いま)をし歩む

巴川に飛び込み焼夷弾逃れしとふ三人子(みたりご)抱へし母の戦争

巫女舞の袴の緋色冴へざへと護国の杜(もり)の静寂を享し